

「ご縁宝くじ当選！大当たり～」

ウィルあいち交流ネット参加グループ

交流ネットに参加して2年目のなでしこAICHIですが、会長という大役をいただき大変貴重な経験をさせていただきました。正直なところ、交流ネットの活動を熟知しないまま携わることとなりましたが、それぞれの代表の皆様にご助けられ、楽しく事業を遂行でき、1年過ぎて見えてきたものがあります。見知らぬ者同士が、顔を合わせるごとに一歩ずつ歩み寄り、事業や催しに参加することでさらに打ち解け、終わりが見えてくる頃には仲間意識が芽生えます。たった1年で終わらず、細く長くつながりがもてるよう願っているのは私だけでしょうか…

小さな町で地域事業に参加していても同じような体験をします。「状況の違う者同士が集っておしゃべりできるのって楽しいよね！」仲間との話し合いのいつもの結論ですが、なかなか新規の人は集まってきません。時代のせいにしてはいけないのですが、人とのつながりを持ちたくない、面倒くさいと思う人が増えているように感じます。

性別や年齢を交えた人の輪は、笑いを生み、知識を肥やし、エネルギーを倍増します。出会いや人の縁はお金では買えない目に見えない宝くじ、皆さん平等に持っています。自身を成長させる当たりくじにするのに必要なのは、小さな勇気だけ！心の億万長者のチャンスはだれに

でもあります。踏み出しませんか？小さな一歩



なでしこAICHI 田島由美子

- *さわらび会
- *メンズリブ名古屋
- *ア・コール
- *女性学'98の会
- *IPA
- *メディアの会かたつむり
- *ウィル10
- *A・B・C・Net
- *C・C・C
- *グループ・キートス
- *クラリネット'99
- *2000女性学の会
- *ウィル2000
- *I. W. L
- *ウィル・ミニ・ボックス
- *ウィルD○2002
- *平成いちご会
- *きらら2005
- *サーティネット '05
- *ベリーズ18
- *Step07
- *トライアングル '08
- *まちづくりファシリテーター勉強会
- *Fem.'09
- *Amelie'10
- *なでしこAICHI
- *きらり24

ウィルあいち交流ネットとは…

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。



男女共同参画は、日本の希望⑩ 希望を失った女性の行き場

前回示したように、女性が経済的に活躍したいと思っても、正社員にはその裏で家族を支える専業主婦がいることを前提とした日本的労働慣行が、その実現を阻んでいます。

しかし、それだけではありません。男女雇用機会均等法ができて20年近く経った現在でも、微妙な形で女性差別が残っています。私が直接話を聞いた三ケースを取り上げます。三人とも当初は企業で仕事を続けようと思気揚々としていた大卒女性です。

総合職として大手企業に入社した女性が、微妙な差別に気づきました。同期で入った男性は業績が振るわなくても、一定の年齢になると主任や係長に昇進しています。しかし、同期の女性は、業績を上げている何人かの女性は男性と同じに昇進しているけれど、年齢がいても役なしの女性も多いといいます。男性であるというだけで昇進させる企業に嫌気がさし、語学能力を生かして海外の企業に転職し、今は管理職に昇進しています。

ある中小企業で、支店長に見込まれ、大卒総合職第一号として入社した女性がいます。しかし、配属された現場の男性上司は、大卒男性と同じに扱わず、一般職高卒女性と同じ仕事しかさせてくれなかったといいます。人事が注意しても現場の上司は聞き入れなかったそうです。彼女はいたたまれず退社。女性差別が少ないと考え、高校教師になりました。

ある地方で婚活中の30代女性に会いました。話を聞くと、ホテルで正社員として働いていたのが、業績悪化で人員を削減の際、退職を余儀なくされました。理由は未婚女性で親と同居しているから生活に困らないだろうと言われたそうです。年配のキャリアウーマンの女性にこの話をすると、

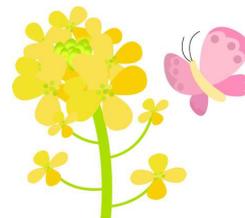
男性以上に努力する姿をみせるべきだとか私は差別に負けないで頑張ってきたなどと言われることがまあります。もちろん、そのような強い女性もいるでしょう。しかし、多くの女性が同じように強いわけではありません。私は、『希望格差社会』の中で、アメリカの社会心理学者の論文を引いて、「努力が報われると思えば希望が生じる、努力しても無駄だと思えば絶望が生じる」と書きました（註1）。「男性と同じように努力しても、男性と同じようには報われない」状況は、多くの働く女性のやる気を削いでいくのです。そして、他に努力すれば報われる場があると思えば、そちらに行って自分の能力を生かそうとするのは当然です。

最初の女性は、海外に活路を求め、二番目の女性は不本意ながら教師の道を選びました。そして最後の女性は、仕事で活躍する事を諦め、専業主婦になることを狙っています。彼女たちを責めることが出来るでしょうか。新卒一括採用慣行のせいで、途中で正社員になる道は狭い、その上に女性として差別される。正社員と結婚して主婦になるしか、自分の将来はないと考える、これは、現状では合理的な願望です。それが実現する可能性は低くなっていますが。

今世紀に入ってから、若い女性の中で専業主婦志向が増える傾向にあります。これは、様々な調査データによって支持されています（註2）。これは、仕事において女性差別的状況が続いており、なかなか改善されない結果生じている傾向だと思って間違いないでしょう。

内閣府「共同参画2月号」より

中央大学教授 山田昌弘



[編集後記]年度末で何かと忙しいでしょうが、笑顔を忘れずにがんばりましょう。 S. I

編集発行：ウィルあいち交流ネット

編集協力：(公財)あいち男女共同参画財団

企画協働課協働担当